

1 学校として目指す授業

児童が様々なもの（既習事項・他教科・生活経験・他者の考えなど）を生かして、自分の考えを深めたり、表現したりできる授業
--

2 児童の現状

（１）「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析
・学力調査に関する本校の平均正答率は、どの教科も全国や東京都の平均正答率よりも高い結果となった。評価の観点について、問題別に見ていくと、国語では知識及び技能が、算数や理科では思考力、判断力、表現力等が高い正答率であった。 ・平均正答率が高い一方で、無回答率が全国平均より高い問題も見られた。個に応じた授業を充実させることが必要である。	・「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の質問について、肯定的な回答が全国平均に比べ7％以上高く、概ね規則正しい生活ができていることが分かる。 ・「学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができている」については全国平均の3％高いにとどまっている。総合的な学習の時間や特別活動の積極的な活用、教科横断的な指導の充実が必要である。

（２）都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（小学校4～6年生）

どの教科も授業を楽しみながら主体的に取り組む姿が多くみられるが、理解度については難しさを感じる児童も多い。学習の動機については「分かることが楽しい」「考える力を付けたい」といった内発的理由を挙げる児童が多数を占めており、学びを自己成長や将来の力と結び付ける前向きな意識が育っている。学習の進め方に関しては、友達の意見を聞き、自分の考えをまとめる活動が活発に行われている。しかし、学習内容を振り返り、次に生かす力については十分に育っておらず、今後の育成が求められる。さらに家庭学習の状況については、毎日30分以上継続して学習する児童が一定数いる一方、十分な時間を確保できない児童もいて、家庭での学習習慣の定着の程度に二極化が見られた。児童一人一人が自信をもって学びを深められるよう、授業改善と家庭との連携を通じて支援を進めていく。
--

（３）その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・教科に関するアンケート（学校評価）・ワークシート等 →教科に関する興味関心は高く、楽しく授業を受けている。しかし、適用問題やワークテストの結果に反映されず、知識の定着に結び付いていないことも見られるため、学習実態に応じた柔軟かつ丁寧な指導が必要である。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・課題を自ら発見したり、課題解決に向けた方策を自分で考えたりすることが苦手な児童が多く、課題解決の方法を身に付けさせる必要がある。 ・基礎学力における個人差の大きい。個に応じた指導を更に工夫していく必要がある。 ※上記2を踏まえ、学校全体の課題を焦点化してまとめる。

4 学校全体の授業改善の視点

児童の主体性を高める指導の工夫 ・全体での共有だけでなく、ペアやグループでの対話活動を効果的に取り入れ、自分の考えに自信をもって表現できるようにする。 ・教科担任制による専門性の高い授業を行い、評価をこまめに行うことで児童の個々の状況を判断し、個に応じた指導を充実させる。 ・問題解決型の学習を取り入れ、自ら考え主体的に取り組む機会を増やす。 ・ICT機器を活用し、児童の主体的に学習に取り組む態度を養う授業を展開する。 ※上記3を踏まえ、学校全体で統一して授業改善を図る視点を1文にまとめて記載する。
--

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・読書に親しみ、「読むこと」「書くこと」「話す聞くこと」など、各領域の基礎基本を繰り返し定着を図る。 ・ペア学習を取り入れ、友達同士で考えを伝え合う学習を取り入れる。				児童の学習意欲を向上させるために、ICT機器を活用した教材提示を行い、共有や習熟の場面でもGIGA端末の機能を活用する。				身近な話題を取り上げることや、体験活動を行うこと、GIGA端末を活用することなどを通し、自身に関係する問題として学習を捉え、自分自身や自分の生活について考えたことを表現できるようにする。		歌や楽器の演奏を通して、音楽の楽しさを味合わせる。		様々な学習グループで材料や方法などについて話し合う活動を題材ごとに設け、自分の見方や感じ方を広げるようにする。			ICT機器などを活用し、手本や練習方法を学べるようにする。また、友達に思いを伝えることで、上達のための様々な方法があること学ぶ。時間ごとに、振り返りの時間を設定するが、一定の運動量も確保し体力の向上を目指す。				・デジタル教科書の挿絵や動画を活用し、イメージしやすくする。 ・必要に応じて役割演技を取り入れたりワークシートに吹き出しなどを用いたりして、自分なりの考えをもたせやすくする。		
中学年	・課題提示や板書等を工夫し、視覚的に内容理解ができるようにする。ペア学習や小グループでの交流学習を取り入れ、他者と関わりながら自分の考えをもてるようにする。		・問いを自分事として捉えられるような資料提示を行う。 ・調べて気付いたことや分かったことを発表したり、話し合いの機会を設定したりして、考えを整理して表現できるようにする。		・デジタル教科書を活用した教材提示を行い、数や形について可視化できるようにする。対話を中心とした考えを共有できる場면을習熟度別に設定し、知識・理解の定着を図っていく。		GIGA端末を用いた教材提示や事象提示の工夫をすることで、自ら問題を見いだしたり、生活経験に結び付けて予想ができるようにする。				様々な楽曲を演奏することを通して、曲想や歌詞の内容を感じ取らせる。		グループやペアで材料や使用方法、自分たちの作品などについて話し合う活動を題材ごとに設け、自分の見方や感じ方を広げるようにようにする。			ICT機器などを活用し、手本や練習方法を学べるようにする。また、友達に思いを伝えることで、上達のための様々な方法があること学ぶ。時間ごとに、振り返りの時間を設定するが、一定の運動量も確保し体力の向上を目指す。				・デジタル教科書の挿絵や動画を活用し、内容を理解させる。 ・ペアやグループで友達の考えを聞いたり自分の考えを伝えたり、ICT機器を用いたりして、他者との意見を交流しやすくする。		
高学年	・根拠をもって考えを書いたり、対話により考えをもったり深めたりできるように、具体的な書き方や文型等を用いて指導する。 ・教科横断的な視点での授業を心掛け、児童が学んだことを生かす機会をつくる。		・社会的事象に対して問いを見いだし、解決できるようにする。資料の精選や発問の仕方を工夫したり、自由進度学習を取り入れたりするなど、主体的に学習に取り組めるよう指導する。		・デジタル教科書を活用した教材提示を行う。対話を中心とした考えを共有できる場면을習熟度別に設定し、知識・理解の定着を図っていく。またICT機器を活用し、児童一人一人の考えの共有を行っていく。		根拠をもって仮説を立て、実験や観察の結果から共通点や相違点を見付けたり、予想と比較して考察したりできるように、話し合い活動を取り入れながら自分の考えを再構築し、表現できるようにする。				様々な楽曲を演奏することを通して、自分の思い・表現を込める経験を重ねさせる。		様々な学習グループで材料や表現方法、自分たちの作品や著名な芸術作品などについて話し合う活動を随時設け、自分の見方や感じ方を深めるようにする。		ペアやグループでの話し合いなどを意図的に設定し、友達の考えを知り、自分の考えを深められるようにする。また、自分の生活に生かすという視点で問題解決的な学習を取り入れ、学んだことを実生活に生かせるようにする。		めあてや学習課題を明示し、自分の課題に対して課題解決の方法やポイントを考えさせる。思考させる場面や仲間と協働的に課題解決する時間を設け、「知る、見る、する、支える」の視点を大切にしている。		・GIGA端末を活用して、外国語によるコミュニケーションに対する興味・関心を高める。 ・Think-Pair-Share(個人→ペア→集団)を始めとする学習形態の工夫により、「話すこと」に対する児童の自信を高める。 ・低学年から継続して、歌やダンスといった教材を活用し、英語の音声に慣れ親しむ。		・意見や話し合いの内容を分類し、構造的に板書することで、児童が考えを深める手がかりになるようにする。 ・他者との交流を通して自分の立場を明確にし、物事を多面的に考えられるようにする。	